

「JCI ASPAC山形大会」

公益社団法人山形青年会議所
2014年度理事長

齊藤 秀昭



2012年6月10日。香港大会において念願のJCI ASPAC(以下アスパック)山形大会開催が決定しました。夢が現実となった瞬間、興奮を抑えることができませんでした。1955年の山形青年会議所創立以来、山形の街づくりに情熱を注いできた諸先輩、招致活動を後押ししてくれた吉村美栄子知事、市川昭男市長とともに喜びを分かち合いました。

国際BID(国際大会招致権)獲得当時の野口雅弘理事長は、創立50周年に当たって「The Mother Land YAMAGATA」の柱の1つに「観光立市 YAMAGATA」の言葉を掲げ、「1人でも多くの方に来県してもらい、山形の素晴らしさをしっかり伝えられるよう一丸となって取り組んでいく」と決意を表明しました。その思いを井上周士理事長、そして私が受け継ぎ、国際大会成功に努力していく所存です。

アスパックについて紹介します。私たち山形青年会議所は日本青年会議所の一員です。その国際機関がJCI(国際青年会議所)で世界の約120カ国・

地域が加盟しています。JCIは世界全体を4つのエリアに分けており、日本はアジア太平洋エリアに所属しています。アスパックはこのエリアの最も重要な会議で国籍、民族、宗教、性別の枠を超えて地域の連帯、理解を深め合い、開催地の人々との交流を育む大会です。

山形大会は本年6月4日から7日までの4日間、山形市総合スポーツセンター、山形ビッグウイング、市内のホテルなどを会場に開会式、総会、レセプションなどが行われます。国内外22カ国から約8,000人が来形します。大会スローガンは「Hand in Hand - A BETTER FUTURE for all! - (絆~手と手を取り合って、未来のために新しい扉を開こう!)」としました。私たちは物質的な豊かさを追い求める余り、元来、アジア太平洋地域の人々が大切にしてきた「人と自然の調和」「人と人との絆」を見失いつつあります。ライシャワー駐日米大使が「山の向こうのもう1つの日本」と表現した豊かな自然と、古き良き文化の残る山形の地で、あらためてそのことに思いをはせる場としたいと思っています。

同時に絆には鎮魂と感謝の意を込めました。アスパックは東日本大震災以来、国内で開催される初の大規模な国際大会となります。招致に当たっては「東北はひとつ」の合言葉の下、被災地の仲間が私たちに大きな力を与えてくれました。震災時に国際青年会議所の仲間は精力的に支援活動を行ってくれました。彼等に感謝の意を伝えるとともに、未だ大きな傷跡が残る被災地への鎮魂、復旧・復興へのステップにしたいと考えています。

山形市は今年ビッグな観光イベントが続きます。「山形ファン」「山形リピーター」をつくる絶好のチャンスです。期間中、「もう一度山形に来てみたい」と思っていただけよう山形の街、山形の人とふれあう企画も予定しております。また、国内外から多くの青年経済人が訪れます。山形の産業を発信するためのトレードショーなども企画します。大会はこれまで日本では東京、横浜、金沢、仙台といった大都市で開催されており、人口25万人台の地方都市での開催は山形が初めて。それだけに注目を集めています。市民の方々にご理解をいただき、会員128名全員で山形の街づくり、賑わい創出のエポックとなるべく邁進します。

㈱山形フラワーセンター専務取締役